



小城市立歴史資料館 * 中林梧竹記念館だより

中林梧竹記念館 第2期収蔵品展 「おどる梧竹さん～筆で奏でるリズム～」開催中

記念館収蔵品展「おどる梧竹さん～筆で奏でるリズム～」を開催中です。

- ◆期間 ～12月27日(日)
- ◆場所 中林梧竹記念館 常設展示室
- ◆観覧料 200円(大学生以下無料)



▲展示風景

「空・創・感」ワークショップ 梧竹さんと桐と竹アートを開催しました

歴史資料館2階の企画展示室および創造のガラス壁ギャラリーでは、「空・創・感」を開催しています。そのなかで夏休み特別企画として参加型ワークショップを開催しました。

「すみで竹を描いてみよう」では、参加した小学生が梧竹が墨で描いた竹を参考に色紙にいろいろな竹を描きました。同時に開催した「天まで届け竹オブジェ」「桐の葉ことば」の作品を桜城館ロビーに展示しています。



▲開催状況

おぎの歴史探検隊

銀座の書聖・中林梧竹〈その1〉

小城で「梧竹さん」として親しまれる中林梧竹は、明治時代の日本を代表する書家の一人です。梧竹は、文政10(1827)年に小城藩士の家に生まれ、幼い頃から神童と呼ばれていました。成人して小城鍋島藩に仕えましたが、明治4(1871)年、45歳のとき廃藩置県により藩が消滅。これを機に役職を辞し、書の道に専念します。

梧竹の運命を大きく変えたのは、長崎にいた清国人・余元眉との出会いでした。清国とは現在の中国で、梧竹は彼の持つ漢魏六朝の碑本法帖を手本に、かの国の書の技法を懸命に学びました。二人の親交は深まり、明治15(1882)年、梧竹は余元眉の勧めで清国に渡航。当時としては老齡の、56歳の新しい船出でした。

北京に入った梧竹は、李鴻章の経営する銀行の楼

上に滞在。余元眉の師匠・潘存はんそんに師事し、熱心に修行に励みました。また各地を旅し、万里の長城にも登りました。大きな成果を上げた梧竹は、潘存のお墨付きを得て明治17(1884)年に帰国。以後は、東京銀座の「伊勢幸」に寄寓する(一時的に身を寄せる)こととなります。(続)

小城郷土史研究会/著



▲万里の長城

◆開館時間 9時～17時 ◆休館日 毎週月曜日・11月4日(水)・24日(火)

【問合せ・申込み】歴史資料館 文化課(桜城館2階) 担当 下川・永田 ☎71・1132

小城市ホームページから 梧竹・歴史資料館・文化財 検索